

令和7年度学校自己評価システムシート（さいたま市立浦和南高等学校）（学校番号 s50）

目指す学校像	文武において高きに挑み、深く学び、地域社会・国際社会に貢献することができる「知・徳・体」の調和がとれた人材を育成する学校
重点目標	1 自己実現…主体的に学習して自己実現を図る生徒を育成する教育体制の構築を推進 2 文武自考…主体的に取り組む生徒を育成するため活力と特色ある教育活動を推進 3 情報発信…コミュニティ・スクールとして積極的に情報発信を行い信頼される学校づくりを推進

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価		
年度	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 進学重視型単位制、55分授業、週34単位、年8回の土曜授業というシステムが定着。現役4年制大学進学率は10年連続80%を超えており、昨年度は90.7%であった。全年次でタブレットを活用した授業改善が推進されており、昨年度の生徒アンケートでは「タブレットを効果的に活用している」との回答が92.5%であった。</p> <p>【課題】 ・ICTを活用した「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」「探究的な学び」に向けた授業改善を、推進する。 ・より高みを目指し第一志望を諦めない生徒を育成するため、一般選抜まで見通した指導が必要である。また、学校推薦型選抜、総合型選抜等にも対応した、面接や小論文指導を行っていく必要がある。 ・南高将来構想を全職員で共有し、全教職員が一丸となって取り組んでいく。</p>	<p>授業力向上による確かな学力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」「探究的な学び」に向けた授業改善を推進する。 外部講師を招聘し授業改善研修を継続して行う。 教員相互の授業観察を継続して実施する。 企画委員会を中心に、南高将来構想について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケートでICTを効果的に活用している90%以上。 生徒・保護者アンケートで授業満足度80%以上。 外部講師による指導力向上研修を年2回以上実施。 教員相互の授業観察を1、2学期に実施。 企画委員会を中心に南高将来構想を検討し、方向性を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケートiPadを効果的に活用している、生徒94.8%、保護者91.6% 生徒・保護者アンケート授業満足度、生徒83.4%、保護者78.7% 6/18大宮北高教頭による、12/16本校教諭3名による、授業改善研修会を実施。 授業公開週間11/17～11/21、初任者研修・年次研修・教科研修の研究授業にて、教員相互の授業観察を実施。 企画委員会にて、南高将来構想を提案し、6/19に進学重視型単位制、55分授業及び「土曜授業」実施を継続、R9入学者選抜にて学校選択問題の導入することを決定。12/23にR9入学生より台湾フィールドワークを実施することを提案。さらに学校の特色化を検討中。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」「探究的な学び」に向けた授業改善を、継続して推進する。 教員と生徒の学びが相似形であることを念頭に、教員が主体的に協働する授業改善研修や相互授業観察を行う。 南高将来構想について、本校の特色化を進め、全教職員で共有し、全教職員が一丸となって取組を継続する。 R9実施の台湾フィールドワークを踏まえたカリキュラム・マネジメントに取り組む。
2	<p>【現状】 文武自考に基づき、すべての活動に主体的に取り組む生徒を育成するため、活力と特色ある教育活動を目指し実践している。昨年度の生徒アンケートでは、「学校行事に意欲的に参加できている」との回答が97.0%であった。また、「部活動が盛んである」との回答は99.8%と非常に高い。総合的な探究の時間を活用したカリキュラム・マネジメントについて継続して研究している。</p> <p>【課題】 ・総合的な探究の時間の再構築完成年度となるため、課題設定・解決能力を育む活動をさらに深化させる必要がある。 ・本校の重要な教育活動である海外交流事業に継続して取り組んでいく。</p>	<p>主体的に取り組む生徒を育成するための特色ある教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に取り組めるよう学校行事を充実させる。 総合的な探究の時間に計画的に取り組ませ、主体的に取り組む生徒の育成を目指す。 2年次海外研修旅行や海外交流事業への積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケートで学校満足度95%以上。 総合的な探究の時間にて、グループ探究からプレゼンテーションを実施し、主体的な学びを実現する。 2年次生徒アンケートで研修旅行に積極的に活動した95%以上。 海外交流事業への応募者数の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート学校生活に満足している、生徒93.3%、保護者87.4% 総合的な探究の時間にて、グループ探究、プレゼンテーションを実施。 2年次生徒アンケート研修旅行に積極的に活動した97.8% ニュージーランド姉妹校交流に9名が参加。 大韓赤十字社京畿道支社とのJRC/RCY交流プログラムに2名が参加。 さいたま市主催模擬国連に11名が参加。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心とした学校行事の運営など、生徒が主体的に取り組む学校行事の実施に、継続して取り組む。 総合的な探究の時間を中心とした教科横断的な学びの実現を目指してカリキュラム・マネジメントに取り組む。 海外交流事業は、生徒が社会を広い視野で捉えるよい機会となることから、R9実施の台湾フィールドワークも含めてさらなる充実を図める。
3	<p>【現状】 近隣小中、辻地区、市及び南区との連携事業を実施し、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進している。本校の魅力をもっと発信するため、学校HP等を効果的に活用した積極的な情報発信に努めている。</p> <p>【課題】 ・本校教育活動への理解を更に深めてもらうため、地域に開かれた信頼される学校づくりのより一層の推進が必要。 ・学校説明会等の工夫や中学校・塾への説明会実施、学校HPの効果的な活用などによって、引き続き本校の魅力を発信する必要がある。</p>	<p>部活動の更なる活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性を引き出し、成就感や達成感を感じさせる部活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートで部活動が盛んである98%以上。 部活動への加入率90%以上。 各部活動の大会や発表会等の結果向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者アンケート部活動が盛んである、生徒99.2%、保護者92.5% 部活動加入率87.6% 全国大会にバトン部、関東大会に陸上部・女子ソフトテニス部、女子卓球部が出場。 サッカー部・男子バスケットボール部にて女子栄養大学と連携事業を実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に参加し、成就感や達成感を感じさせる実践となっている。引き続き生徒が主体となって、自ら課題を見つけ向上心をもって活動できる部活動を実践していく。
	<p>【現状】 近隣小中、辻地区、市及び南区との連携事業を実施し、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進している。本校の魅力をもっと発信するため、学校HP等を効果的に活用した積極的な情報発信に努めている。</p> <p>【課題】 ・本校教育活動への理解を更に深めてもらうため、地域に開かれた信頼される学校づくりのより一層の推進が必要。 ・学校説明会等の工夫や中学校・塾への説明会実施、学校HPの効果的な活用などによって、引き続き本校の魅力を発信する必要がある。</p>	<p>コミュニティ・スクールとして開かれた学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近隣小中、辻地区、市及び南区との連携を推進する。 学校運営協議会との連携・協働を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 辻小学校と連携したチャレンジスクールを実施する。 近隣小中、辻地区、市及び南区と連携事業を実施する。 学校運営協議会を通して地域と有益な連携・協働を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物部、生徒会本部による辻小チャレンジスクールを3回実施。 小中学生を対象とした講座等を8講座実施し、346名参加。岸中学校と交流授業を実施。 生徒会役員が未来くるFM放送局・さいたま市クラブ・テイクに参加 南浦和中学校学習支援ボランティアに生徒3名、辻地区ふれあいコンサートに音楽部・吹奏楽部28名、南区ふるさと祭りにボランティア生徒15名が参加。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 近隣小中、辻地区、市及び南区との連携事業を実施することができた。今後も、開かれた学校づくりを目指し、継続して推進していく。
	<p>【現状】 近隣小中、辻地区、市及び南区との連携事業を実施し、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進している。本校の魅力をもっと発信するため、学校HP等を効果的に活用した積極的な情報発信に努めている。</p> <p>【課題】 ・本校教育活動への理解を更に深めてもらうため、地域に開かれた信頼される学校づくりのより一層の推進が必要。 ・学校説明会等の工夫や中学校・塾への説明会実施、学校HPの効果的な活用などによって、引き続き本校の魅力を発信する必要がある。</p>	<p>組織的、積極的な情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な学校広報活動を推進する。 学校HPの更新や学校情報の新たな発信の仕方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、部活動体験への参加者数の増加。 学校HP更新回数の増加。 中学校・近隣塾等への学校説明の実施。 志願倍率1.3倍以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 2/7まで授業公開560名(昨年比+71)、説明会3029名(昨年比-58)、部活動体験669名(昨年比+131)参加。南高祭3924名来校(昨年比-69)。 HP南高リアルタイム204回更新(2/7現在、昨年比+19) 7月に生徒による母校訪問実施、管理職が中学校21校、塾18校に訪問し学校説明を行った。 進学希望状況、10/1現在1.96倍(昨年比+0.31)12/15現在1.82倍(昨年比+0.03) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会について、開催時期や内容の見直しを行った。R9入学者選抜を見据え、塾や1・2年生を対象とした説明会の実施について検討する必要がある。 本校HPだけでなく、学校や塾が主催する学校説明会などの機会を捉え、本校の魅力の積極的な発信に継続して努める。

学校運営協議会による評価
実施日 令和8年2月10日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> AI技術が急速に発展していることから、どんな力を身に付けさせるべきか考える必要がある。 個人の学びを発信する機会が増えており、情報の授業を中心に、情報モラルや情報リテラシーについて学ばせることも大切にしてほしい。 学習環境の変化に伴い、学びのスタイルも新しくなっている。教職員の研修を充実させ、生徒の学びの場を充実させてもらいたい。 南高将来構想では、海外交流事業に力を入れていくことがわかる。高校生のうちに複数の異国文化に触れられることは、生徒の社会に対する視野を広げさせることになる。
<ul style="list-style-type: none"> 大学入試が多様化する中で、論文指導や面接練習など、校内の職員が連携を取りながら個に応じた進路支援を行っている点が評価できる。 計画的な進路支援については継続してもらいたい。 キャリア教育においては企業との連携も模索してみるとよいのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材の育成を目指し、学校行事の運営や探究学習におけるプレゼンテーションといった様々な活動を継続し、生徒の個性を伸ばしてもらいたい。 海外交流事業の充実は、異文化理解・異文化交流ができる人材の育成につながっている。自身の体験を発信できる場の提供についても検討してもらいたい。 親子プログラムや企業の人材活用など、これまでやったことのない活動を検討することも学校の特色化につながるのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> 部活動が盛んであり、運動部はそれぞれの大会で、文化部は様々な発表の機会を通して、生徒一人ひとりが活躍できる場面があることが素晴らしい。 熱心な部活動指導を継続してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 地域連携事業に積極的に参加する生徒が多く、近隣の小中学生にとって憧れの存在となっている。 他校と比較して、地域連携に力を入れていることが伺える。今後も地域に根付いた高校であり続けてもらいたい。 これまでの活動を継続しながら新しい取組にも積極的に参加させ、生徒の成長につなげてもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度からの授業料無償化や令和9年度入学者選抜からの入試改革を考えた際に、私立高校への進学志望者が増加することを懸念している。公立高校としての魅力化を図り、本校の特色を積極的に発信してもらいたい。 本校独自の取組について、校内生徒のみならず地域の小中学生にも積極的に発信する機会を提供してもらいたい。